



豊島区

まちひと 創生総合戦略

～「消滅可能性都市」から「持続発展都市」へ～

しごと



豊島区

まち・ひと・しごと創生総合戦略

～『消滅可能性都市』から『持続発展都市』へ～

平成 28 (2016) 年 3 月



はじめに

豊島区は、平成 26（2014）年 5 月、民間有識者組織「日本創成会議」から、東京 23 区の中で唯一の「消滅可能性都市」の指摘を受けました。この指摘を受け、本区は、直ちに対策本部を立ち上げ、この消滅可能性都市の指摘を、広く日本全体の問題として捉え、「女性にやさしいまちづくり」、「高齢化への対応」、「地方との共生」、そして、「日本の推進力」の 4 本の柱をうち立て、具体的な対策に取り組んできました。

「女性にやさしいまちづくり」を検討する中では、「としま F 1 会議」を立ち上げ、女性の目線に立った多くの提案の中から、効果的な事業が実現に至っています。

また、「地方との共生」では、地方の発展なしには、豊島区も存在できないという考えから、様々な地域との共生も重要な柱として考えました。交流都市との連携を通して、お互いの強みを活かしながら、相互の発展に結びつく施策展開を進めており、姉妹都市の秩父市との間では、豊島区版 C C R C 構想の具体化を検討しています。

「高齢化への対応」では、元気な高齢者が担い手として活躍する場を確保するなど、生きがいづくりの充実を積極的に進めていきます。また、後期高齢者の増加により、不足が見込まれる特別養護老人ホームの区外設置について、検討を始めています。

そして、「日本の推進力」では、グローバル化、国際化が急速に進む中、平成 32（2020）年には、東京オリンピック・パラリンピックが開催されます。東京は、国際都市として大きく発展、変貌しようとしています。豊島区も、世界を視野に入れた「国際都市」として、成長していくことが日本全体の活力を維持、向上させることにつながります。この「日本の推進力」の検討の中から、「国際アート・カルチャー都市構想」が誕生したのです。「国際アート・カルチャー都市」とは、安全・安心な都市空間の中で、誰もが多様な文化を享受し合い、世界中の人々を魅了するにぎわいあふれるまちを目指すものです。

国は、平成 26（2014）年 11 月に「まち・ひと・しごと創生法」を制定し、地方公共団体にも総合戦略の策定を促しています。本区は、「消滅可能性都市」の指摘を受け、国の動きに先んじて取り組んできた対策を、さらに推進させるため「豊島区まち・ひと・しごと創生総合戦略」を策定しました。この戦略は、豊島区の人口分析と将来展望を示した「豊島区人口ビジョン」を踏まえ、今後 5 か年の基本目標や取り組む施策に数値目標を掲げています。目標実現にしっかり取り組むことで、「消滅可能性都市」から、「持続発展都市」への歩みを確かなものとしていきます。

目次

1. 総合戦略の位置づけ	4
2. 目指すべき将来人口	5
3. 施策の目標設定と施策検証の枠組み	7
4. 関係機関との連携	7
5. 実施期間	7
6. 基本目標と基本的方向、具体的な施策	8

基本目標1 子どもと女性にやさしいまち

(1) 仕事と家庭の両立ができる生活環境の整備	11
① ワーク・ライフ・バランスの推進	11
② 女性起業家の支援	12
③ 若者や女性に対する就労支援	12
(2) 妊娠・出産・子育ての切れ目のない支援	13
① としま鬼子母神プロジェクトの推進	13
② 待機児童の解消	14
③ 子どもスキップの運営	15
④ リノベーションによるまちづくり	16
(3) 学ばせたい 通わせたい としまの教育を推進	17
① 新しい時代を拓く教育の推進	17
② 安全・安心な学校づくり（インターナショナルセーフスクール）	18
(4) 女性の目線にたった施設整備	19
① トイレから広がる女性にやさしいまちづくり	19
② 子育て世代が利用しやすい公園の整備	20

基本目標2 高齢になっても元気で住み続けられるまち

(1) 生涯健康のまちづくり	21
① 健康長寿まちづくりの推進	21
② としま健康チャレンジ!の促進	22
(2) 生涯安心のまちづくり	23
① としま見守り安心戦略の推進	23
② 地域支え合いの充実	23
③ 医療・介護サービスの基盤整備	24

基本目標3 様々な地域と共生・交流を図り、豊かな生活を実現できるまち	25
(1) 様々な地域との共生	25
① 豊島区版C C R C構想の推進	25
② 大学との連携による地域活性化の推進	26
③ 特別区全国連携プロジェクト	26
(2) 自治体交流の活性化	27
① 自治体交流の活性化	27
② 他自治体との教育連携の推進	28
基本目標4 日本の推進力の一翼を担う国際アート・カルチャー都市	29
(1) 多様性を活かしたまちづくり	30
① 演劇のまちとしての魅力の発信	30
② アニメ・コスプレなどサブカルチャーの発信	31
(2) 出会いが生まれる劇場空間	32
① 旧庁舎跡地活用・周辺整備 ～8つの劇場による にぎわい～	32
② 道路や公園などの公共空間の利用による都市の魅力向上	33
③ 安全・安心の確保	33
(3) 世界とつながり人々が集まるまち	34
① インバウンド施策の推進	34
② 産業振興による活性化	35

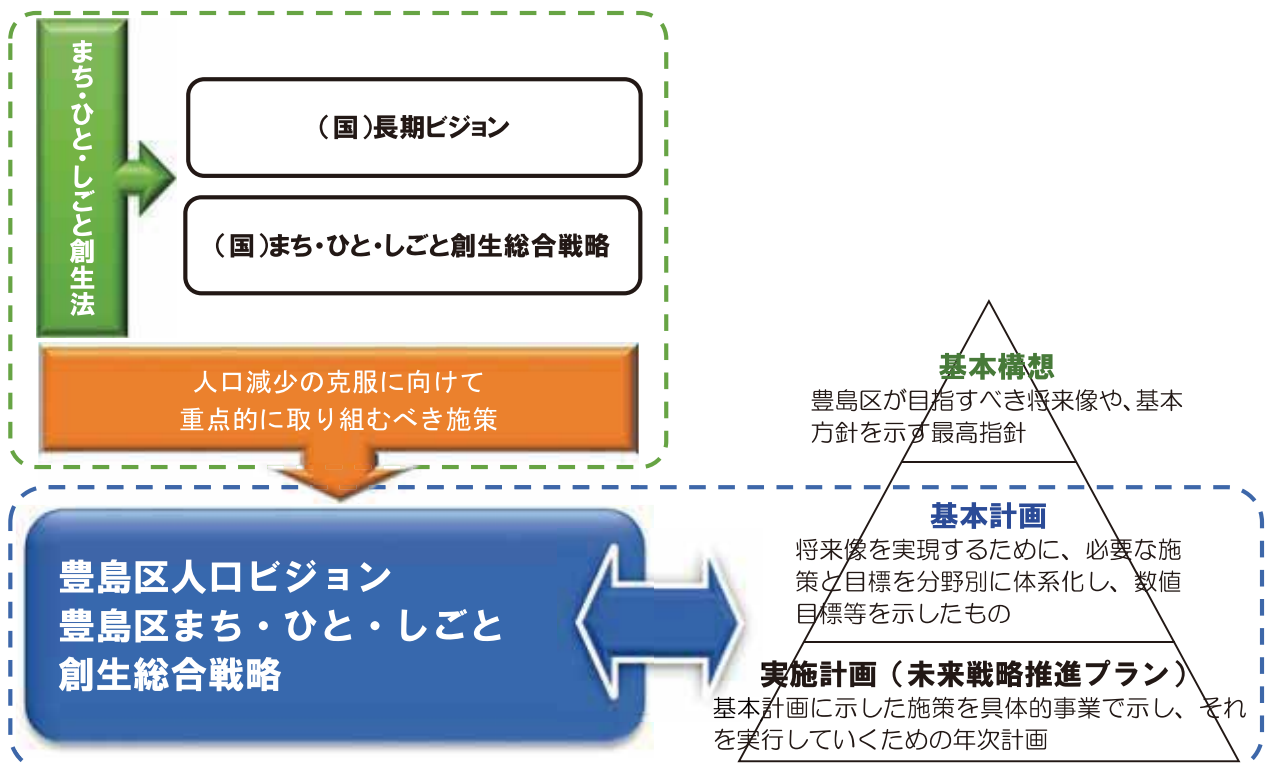
1. 総合戦略の位置づけ

○我が国は、急速な少子高齢化の進展に的確に対応し、日本全体、特に地方の人口の減少に歯止めをかけるとともに、東京圏への人口の過度の集中を是正し、それぞれの地域で住みよい環境を確保して、将来にわたって活力ある日本社会を維持していくことが喫緊の課題となっています。このため、平成26年11月に「まち・ひと・しごと創生法（平成26年法律第136号。以下「法」という。）」が制定されました。これを踏まえ、国は平成26年12月27日に人口の現状と将来の姿を示し、今後目指すべき将来の方向を提示する「まち・ひと・しごと創生長期ビジョン」及び今後5か年の目標や施策の基本的方向、具体的施策をまとめた「まち・ひと・しごと創生総合戦略」を決定しました。

○豊島区まち・ひと・しごと創生総合戦略（以下「総合戦略」）は、「まち・ひと・しごと創生法」第10条に基づき、国の「まち・ひと・しごと創生総合戦略」を勘案しつつ、「豊島区人口ビジョン」で示した将来展望や目指すべき方向性の実現に向けた今後5か年の基本目標や基本的方向、具体的な施策をまとめたものです。

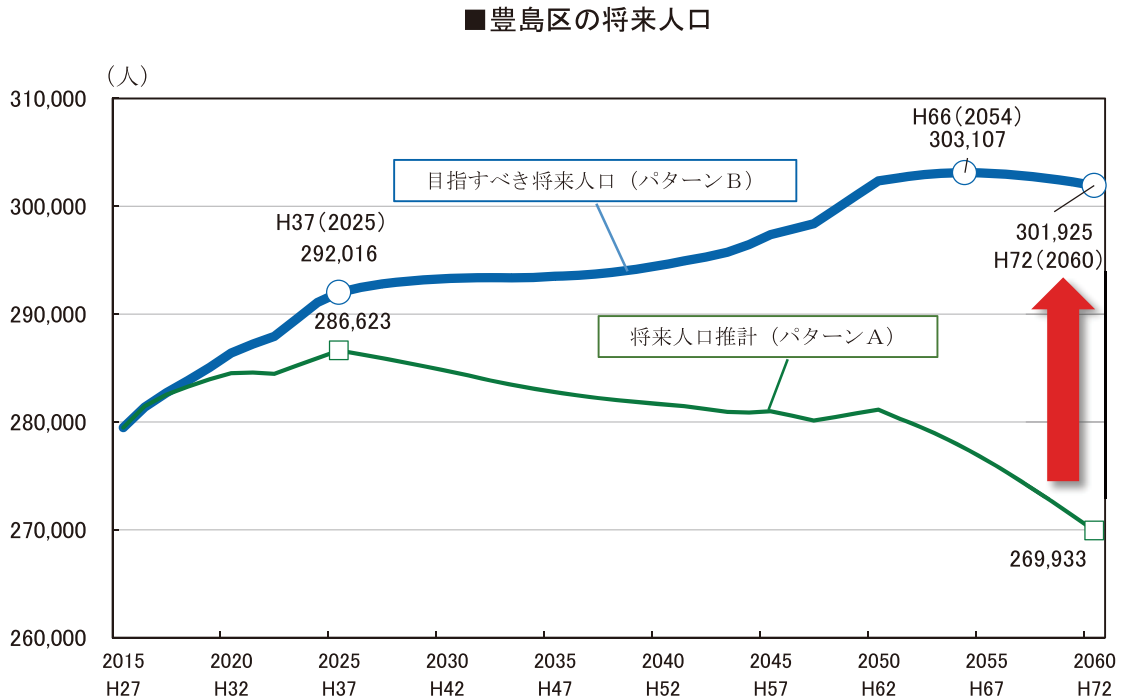
○豊島区基本計画との関係については、豊島区基本計画は、区政運営の最高指針である豊島区基本構想を具体化するとともに、区の各分野における計画を総合的に調整するものです。一方、総合戦略は、豊島区基本計画と一体的に取り組みながら人口問題への対策を深掘りし、重点的に取り組むべき施策をまとめたものです。

■総合戦略と基本計画の関係



2. 目指すべき将来人口

豊島区では、目指すべき将来人口の設定にあたり、住民基本台帳のデータをもとに、様々な条件を設定し、推計を行いました（詳細は「豊島区人口ビジョン」参照）。



① 将来人口推計（パターンA）

○日本の人口減少社会が進行し、地方からの人口流入が今までのように望めない場合を想定した将来人口推計（パターンA）によると、今後、平成37（2025）年までは約28万7千人をピークにゆるやかに人口は増加していきますが、その後は減少し、平成72（2060）年には27万人を割り込む見込みとなっています。

○生産年齢人口（15～64歳）の割合が、平成27（2015）年は約70%ですが、平成72（2060）年には約60%と低下します。また、高齢者人口（65歳以上）の割合は、平成27（2015）年は約20%ですが、平成72（2060）年には約30%と増加する見込みです。

② 目指すべき将来人口（パターンB）

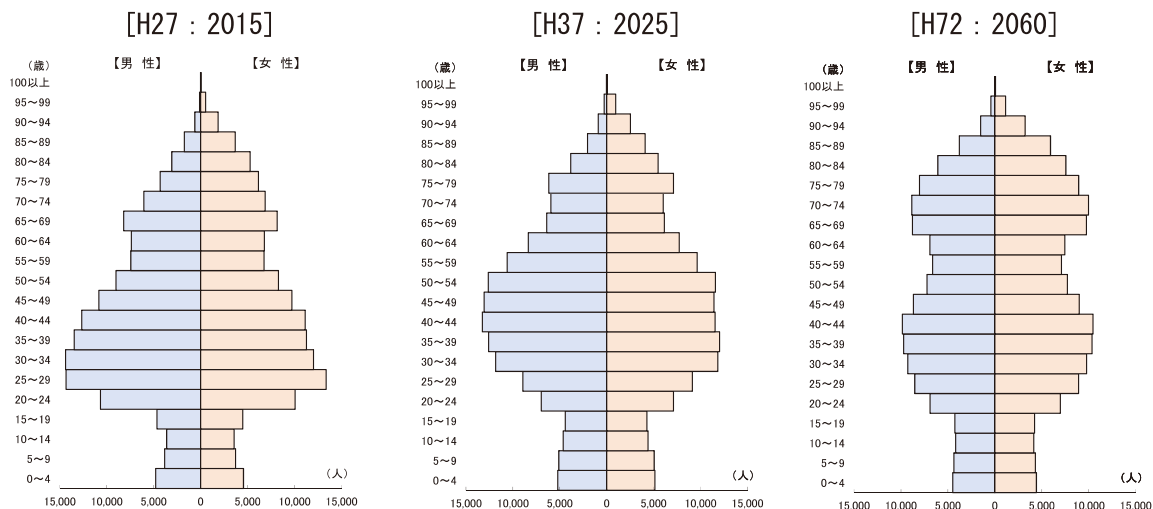
○こうした状況から将来的に人口減少、高齢化が進み、労働人口の減少、地域活力の低下、医療費等の社会保障費の増大など、様々な影響が想定されるため、これに対応するための戦略的な取り組みが必要です。

○そこで、戦略的な子育て支援策や定住策などを加味した場合の目指すべき将来人口（パターンB）を設定し、これを豊島区の目指すべき将来人口としました。

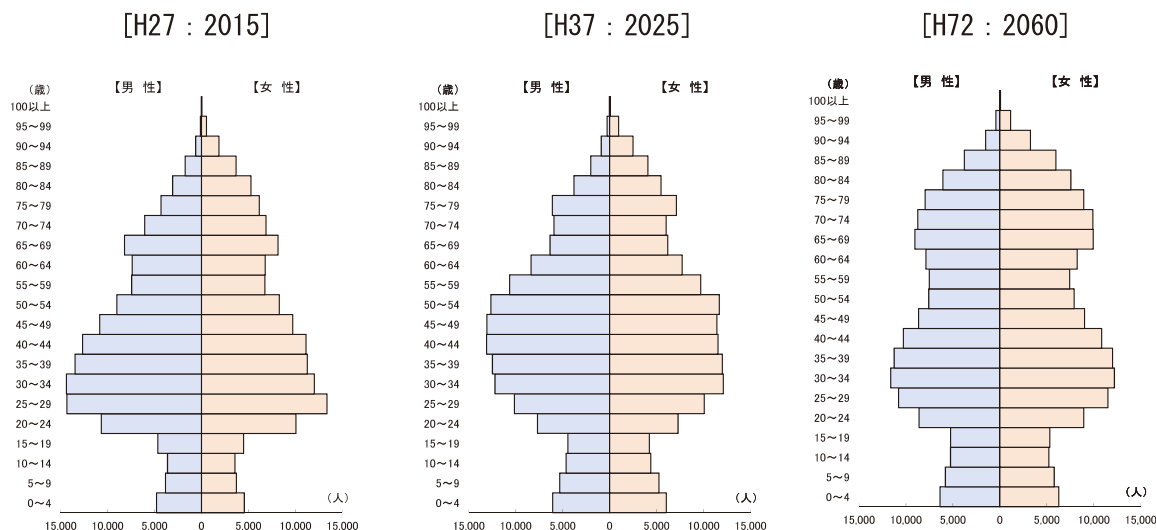
○目指すべき将来人口（パターンB）では、総人口はしばらく増加傾向が続き、平成 37（2025）年に約 29 万 2 千人となり、そして平成 66（2054）年の約 30 万 3 千人をピークに減少傾向となりますが、平成 72（2060）年には約 30 万 2 千人を維持することができます。

③人口ピラミッド（年齢別構成割合の推移）

■将来人口推計（パターンA）



■目指すべき将来人口（パターンB）



3. 施策の目標設定と施策検証の枠組み

- 基本目標ごとに、講ずべき施策の基本的方向と具体的な施策を盛り込み、具体的な施策ごとに客観的な重要業績評価指標 KPI (Key Performance Indicator の略称；達成すべき成果目標) を設定しています。
- 毎年、基本目標に係る数値目標や具体的な施策に係る KPI の達成度等をもとに、実施した施策・事業の効果を、区の附属機関である「豊島区政策評価委員会」を活用し、検証していきます。必要に応じて総合戦略の見直しを行うことにより、PDCAサイクルを確立していきます。

4. 関係機関との連携

- 総合戦略の実現に向けて、国や都、他区市町村と連携を図るとともに、地方創生に関する各種制度を積極的に活用します。また、区民をはじめ、産業界・行政機関・教育機関・金融機関・メディア等の関係団体との連携を強化し、協働により取り組んでいきます。

5. 実施期間

平成 27 (2015) 年度から平成 31 (2019) 年度までの 5 年間

※国の総合戦略と整合



6. 基本目標と基本的方向、具体的な施策

総合戦略では、「豊島区持続発展都市推進本部」における対応策を踏まえつつ、人口減少社会をどのように克服していけばいいのか調査・検討を重ね、基本目標を次のとおり設定することとしました。

《体系一覧》



※国際アート・カルチャー都市とは、これまで豊島区が推進してきた「文化創造都市」「安全・安心創造都市」を進化させた都市像で、豊島区が目指す都市像です。

具体的な施策

主な事業

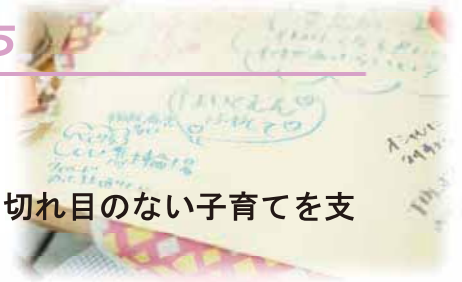
(1)	①ワーク・ライフ・バランスの推進	<ul style="list-style-type: none"> ・ワーク・ライフ・バランス推進企業の認定 ・ワーク・ライフ・バランスフォーラムの開催 ・としま 100 人社長会(WLB ネットワークミーティング)
	②女性起業家の支援	<ul style="list-style-type: none"> ・女性の起業家、経営者等の交流会の開催 ・女性対象の起業塾の開催
	③若者や女性に対する就労支援	<ul style="list-style-type: none"> ・就労支援セミナーの開催 ・企業見学会や面接会の開催
(2)	①としま鬼子母神プロジェクトの推進	<ul style="list-style-type: none"> ・女性のライフプラン形成のための健康相談事業(女性の専門相談) ・としま育児サポート手帳 ・としま育児サポーター事業 ・としま見る知るモバイル ・妊孕力啓発セミナー ・妊産婦歯科健康診査事業 ・鬼子母神 plus ・ゆりかご・としま事業
	②待機児童の解消	<ul style="list-style-type: none"> ・認可保育所等誘致・整備事業
	③子どもスキップの運営	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもスキップの運営 ・児童館から子どもスキップへの移行
	④リノベーションによるまちづくり	<ul style="list-style-type: none"> ・リノベーションまちづくり事業
(3)	①新しい時代を拓く教育の推進	<ul style="list-style-type: none"> ・幼稚園、小・中学校における英語教育の推進 ・ICT環境整備とアクティブラーニングの充実 ・学校トイレ洋式化緊急整備
	②安全・安心な学校づくり(国際ナショナルセーフスクール)	<ul style="list-style-type: none"> ・国際ナショナルセーフスクールの認証取得
(4)	①トイレから広がる女性にやさしいまちづくり	<ul style="list-style-type: none"> ・新区民センター内のパブリックトイレ等整備
	②子育て世代が利用しやすい公園の整備	<ul style="list-style-type: none"> ・公園・児童遊園整備 ・南池袋公園整備 ・造幣局跡地防災公園整備
(1)	①健康長寿まちづくりの推進	<ul style="list-style-type: none"> ・介護予防センターの整備・展開 ・介護予防リーダー養成事業 ・地域リハビリテーション活動支援事業 ・食彩いきいきサロン事業 ・お化粧品による介護予防事業
	②としま健康チャレンジ！の促進	<ul style="list-style-type: none"> ・健康チャレンジ！測定会及び講演会の実施
(2)	①としま見守り安心戦略の推進	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢者アウトリーチ事業 ・見守りと支え合いネットワーク事業 ・高齢者安心通報事業
	②地域支え合いの充実	<ul style="list-style-type: none"> ・コミュニティソーシャルワーク事業 ・地域福祉サポーター制度の推進 ・認知症サポーター養成事業 ・区民ひろばの展開
	③医療・介護サービスの基盤整備	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢者総合相談センターの充実 ・在宅医療相談窓口の充実 ・歯科相談窓口の充実 ・認知症ケア向上推進事業 ・区外における特別養護老人ホーム整備に向けた調査・検討
(1)	①豊島区版 CCRC 構想の推進	<ul style="list-style-type: none"> ・豊島区版CCRC構想の推進
	②大学との連携による地域活性化の推進	<ul style="list-style-type: none"> ・大正大学の自治体コンソーシアム参加自治体の交流、研究活動、地元商店街と連携したミニアンテナショップ ・コンソーシアム参加自治体による地域創生学部学生のインターン受け入れ ・7大学連携事業
	③特別区全国連携プロジェクト	<ul style="list-style-type: none"> ・ホームページの運用によるマッチング事業
(2)	①自治体交流の活性化	<ul style="list-style-type: none"> ・相互交流事業 ・沿線サミット ・他自治体との災害時協定
	②他自治体との教育連携の推進	<ul style="list-style-type: none"> ・能代市との教育連携
(1)	①演劇のまちとしての魅力の発信	<ul style="list-style-type: none"> ・フェスティバル/トーキョーなど国際演劇祭の充実 ・池袋演劇祭
	②アニメ・コスプレなどサブカルチャーの発信	<ul style="list-style-type: none"> ・トキワ荘通りお休み処事業 ・南長崎マンガランド事業 ・オータムカルチャーフェスティバル
(2)	①旧庁舎跡地活用・周辺整備 ～8つの劇場による にぎわい～	<ul style="list-style-type: none"> ・新ホール、新区民センター、中池袋公園、南北区道の整備 ・国際競争力強化推進事業
	②道路や公園などの公共空間の利用による都市の魅力向上	<ul style="list-style-type: none"> ・オープンカフェ ・マルシェ等の連携イベント
	③安全・安心の確保	<ul style="list-style-type: none"> ・豊島区繁華街警備隊 ・街頭防犯カメラの設置事業 ・青色防犯パトロール車による防犯事業 ・セーフコミュニティの再認証取得
(3)	①インバウンド施策の推進	<ul style="list-style-type: none"> ・Wi-Fi 環境の整備 ・インバウンド冊子の発行 ・海外の大規模なマンガ・アニメイベントへブース出展
	②産業振興による活性化	<ul style="list-style-type: none"> ・東京5区合同大商談会の開催 ・としまビジネスサポートセンターによる企業支援 ・区内金融機関と連携したソーシャルビジネス支援の充実 ・としまものづくりメッセ(池袋副都心の産業見本市)の開催 ・起業融資の利子自己負担ゼロ

基本目標 1

子どもと女性にやさしいまち

1. 基本的方向

○子育て・ファミリー層の定住化を目指し、出産前からの切れ目のない子育てを支援し、女性を応援していきます。



数値目標	平成 26 年度 (現状値)	平成 31 年度 (目標値)
子育て世代の区内の定着率	69%	75%

< 指標の設定理由 >

「3歳児健診対象者数(a)」を3年前の「妊娠届出数(b)」で割った値(a/b)を算出し、妊娠届提出後に3歳児健診まで区内に定着していた人の割合(区内定着率)とみなす。この値が高くなることは、区内で子どもを産み継続的に育てる人が増えたと考えられることから、指標として設定した。

女性たちの声を施策に反映



◆子育てインフォメーション

としま F1 会議とは

豊島区が 23 区で唯一「消滅可能性都市」との指摘を受け、当事者である若年女性たちの声を「女性にやさしいまちづくり」に反映させるため、平成 26 年 8 月、「としま F1 会議」を設置しました。「としま F1 会議」では、子育てからワーク・ライフ・バランス、まちづくりから都市ブランディング、広報まで、幅広い提案を受け、11 の事業を具体化しました。そのひとつとして、新庁舎 4 階に子育て相談・情報スペース（子育てインフォメーション）を開設し、妊娠・出産から子育てまで、幅広い相談に応じ、適切な窓口・機関につなぐ「子育てナビゲーター」を配置しています。

※「F1」とは広告、放送業界のマーケティング用語で 20 歳から 34 歳までの女性を指す言葉です。F は「Female」の頭文字です。



2. 具体的な施策

民間公募の「女性にやさしいまちづくり担当課長」を新設するなど、女性目線の施策・事業を戦略的、多角的に推進します。

(1) 仕事と家庭の両立ができる生活環境の整備

① ワーク・ライフ・バランスの推進

区民や企業と連携し、ワーク・ライフ・バランスへの関心と理解を深める事業を推進し、区民一人ひとりが家庭と仕事、地域活動等について、自ら希望するバランスで関われる環境を整備します。

重要業績評価指標 (KPI)	平成 26 年度 (現状値)	平成 31 年度 (目標値)
ワーク・ライフ・バランス 推進企業認定数 (累計)	29 社	65 社

[指標の設定理由] ワーク・ライフ・バランスを理解、推進する企業数の増加が、ワーク・ライフ・バランスの環境整備に寄与する指標であるため。

【主な事業】

- ・ワーク・ライフ・バランス推進企業の認定
- ・ワーク・ライフ・バランスフォーラムの開催
- ・としま 100 人社長会 (WLB ネットワークミーティング)



としま100人社長会とは

「としま 100 人社長会」とは、「としま F1 会議」から提案されたプランの 1 つです。

「としま 100 人社長会」(平成 27 年 10 月開催) では、区内企業の経営トップ層が集まり、ワールド・カフェ方式により「働きたいみんながいきいきと働ける」ための方策や企業にとってのワーク・ライフ・バランスのプラス効果について話し合いました。豊島区では、100 人社長会で出された意見をワーク・ライフ・バランス推進施策に反映させるとともに、区内企業の情報交換の場として WLB ネットワークミーティングを開催していきます。

基本目標 1

子どもと女性にやさしいまち

② 女性起業家の支援

女性の視点を地域社会に活かすため、女性の起業家への相談体制の整備や経営ノウハウの提供等を促進し、女性が起業しやすい環境を整備します。

重要業績評価指標 (KPI)	平成 26 年度 (現状値)	平成 31 年度 (目標値)
サクラヌ biz 応援プロジェクト での支援女性数 (累計)	0 人	600 人

[指標の設定理由] 女性の起業希望者をどのくらい支援できたかを示す指標であるため。

【主な事業】

- ・女性の起業家、経営者等の交流会の開催
- ・女性対象の起業塾の開催

◆サクラヌ biz 応援プロジェクト
～女性起業家交流会～



サクラヌ BIZ とは

「サクラヌ」とは、「F1 会議」が、平成 26 年度に提唱した「豊島区女性のニックネーム」です。豊島区は、日本の桜の代表「ソメイヨシノ」の発祥の地なので「サクラ」と「女性らしくオシャレな響き」を掛け合わせて作られました。「サクラヌ biz」は、中でも「豊島区で起業したい、起業した、事業を運営している」女性を指し、重点的にビジネスサポートを行うため、「女性起業家・経営者の交流会」や「女性のための起業塾」を行います。

③ 若者や女性に対する就労支援

就労意欲がありながら雇用機会が得られない若者や女性の就労を支援するために、ハローワーク等と連携し、就労のためのスキルアップセミナーや職業紹介等を促進します。

重要業績評価指標 (KPI)	平成 26 年度 (現状値)	平成 31 年度 (目標値)
セミナー、見学会、面接会 参加者の雇用・就業者数 (累計)	7 人	75 人

[指標の設定理由] 若者や女性の雇用・就業者数の増加が、各種支援の成果を表す指標のため。

【主な事業】

- ・就労支援セミナーの開催
- ・企業見学会や面接会の開催

(2) 妊娠・出産・子育ての切れ目のない支援

① としま鬼子母神プロジェクトの推進

「としま鬼子母神プロジェクト事業」として、すべての人が安心して子どもを産み育てられる社会を目指し、健康・妊娠・出産・子育ての支援を通じて母性を育み、乳児の健康の保持増進に努めるとともに、家庭の孤立化を防ぐなど、健全な育児環境の確保を図ります。

また、すべての人が、女性の人生の各年代における女性特有のこころとからだの健康課題を理解し、当事者・パートナーが妊娠・出産に係る適切な選択ができるよう、民間事業者等と連携して社会環境づくりに努めます。

重要業績評価指標 (KPI)	平成 26 年度 (現状値)	平成 31 年度 (目標値)
出生数/妊娠届出数	74%	80%

[指標の設定理由] 区内での子育て環境が整備されたことを示す指標であるため。

【主な事業】

- ・女性のライフプラン形成のための健康相談事業（女性の専門相談）
- ・としま育児サポート手帳
- ・としま育児サポーター事業
- ・としま見る知るモバイル
- ・妊孕力啓発セミナー
- ・妊産婦歯科健康診査事業
- ・鬼子母神 plus
- ・ゆりかご・としま事業

「としま鬼子母神プロジェクト」とは

全国的な人口減少問題に先駆的に取り組むため、平成 26 年度、出産前からの切れ目のない子育て支援を展開していく「鬼子母神プロジェクト」をスタートさせました。としま F1 会議を開催し、「としま育児サポート手帳」の配布や結婚から出産・子育て応援サイト「としま見る知るモバイル」の開設、妊産婦を対象とする歯科検診などのほか、27 年 5 月には池袋保健所 1 階を改修し、女性のライフプラン形成や若者全体への健康支援に関する情報発信スペース「鬼子母神 plus」をオープンさせました。また、他区に先駆けて「ゆりかご・としま」事業(*)をスタートさせました。豊島区では、安心して子どもを産み育て、子育ての喜びを実感できる、子育て支援をさらに充実させていきます。

※「ゆりかご・としま」事業：妊娠期から子育て期までを見通した支援を早期から開始することによって、妊婦の健康増進、安全な出産、不安の少ない子育てにつながります。また、母子保健部門と子育て支援部門が緊密に連携する「豊島区方式」により、虐待の早期発見のみならず未然防止を行うことができます。妊娠届出時には、助産師が「ゆりかご面接」を行い、子育て応援グッズを贈り、出産後には、保育士等が「おめでとう面接」を行い、誕生お祝い品を贈ります。

◆ゆりかご・としま事業



◆としま見る知るモバイル



◆鬼子母神 plus
～池袋保健所・健康情報スペース～

◆としま育児サポート手帳

② 待機児童の解消

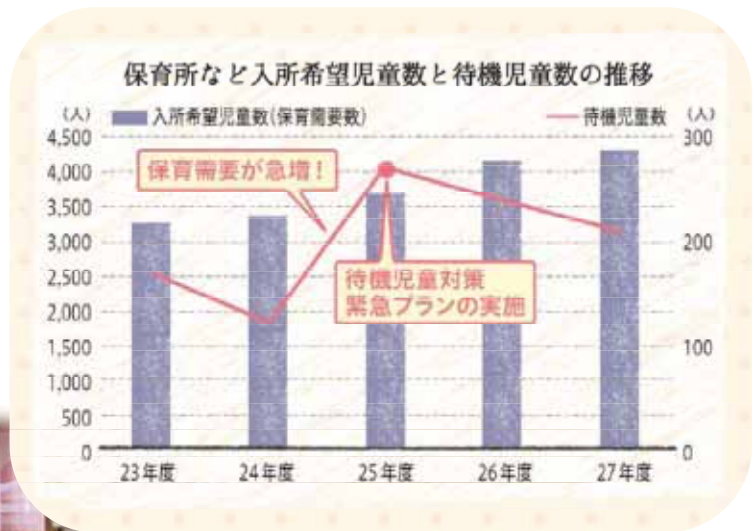
子育て世代が安心して働くことができるよう、認可保育所や小規模保育事業などの誘致を進め、待機児童の解消を図ることで、子育て世代、若者を中心とした生産年齢人口の流入、定住を促進します。

重要業績評価指標 (KPI)	平成 26 年度 (現状値)	平成 29 年度 (目標値)
保育所待機児童数	209 人 ※平成 27 年 4 月 1 日現在	0 人

[指標の設定理由] 子育て世代の仕事と子育ての両立が達成できたかを示す指標であるため。

【主な事業】

- ・認可保育所等誘致・整備事業



③ 子どもスキップの運営

また、小学校の教室や校庭、体育館を活用し、学童クラブの機能を維持した小学生のための放課後対策として、安全で安心な「子ども同士の遊び場」を提供することで、子育て世代が安心して働ける環境を整備し、子育て世代、若者を中心とした生産年齢人口の流入、定住を促進します。

重要業績評価指標 (KPI)	平成 26 年度 (現状値)	平成 31 年度 (目標値)
子どもスキップ の利用者数	461,054 人	602,100 人
[指標の設定理由] 児童の利用者数が、子育て世代が安心して働けていることの指標となるため。		

【主な事業】

- ・子どもスキップの運営
- ・児童館から子どもスキップへの移行（平成 28 年度中にすべてスキップへ移行）

「子どもスキップ」とは

「子どもスキップ」は学校施設を活用して、小学生を対象とする育成事業と学童クラブを総合的に展開する事業です。学校の教室、校庭、体育館等を活用して、自主的な参加のもとに遊びをとおして、子どもたちが交流を広げる事業で、「学童クラブ」登録児童と「学童クラブ」登録児童以外の児童（一般児童）が交流することも目的のひとつになっています。

また、子どもスキップでは、地域の方がコーディネーターや指導員となり、工作、手芸等の文化活動やスポーツなどを行う「放課後子ども教室」も実施しています。この「子どもスキップ」と「放課後子ども教室」を一体的に運営していることも豊島区の大きな特徴です。



学校が終わったあとも
友だちとおもいきり
遊べる！



④ リノベーションによるまちづくり

次代を担う子どもや女性が住んで働いて暮らせる、職住近接のまちを目指し、公民連携による遊休不動産の活用と地域資源を活用し、地域の活性化を図り、持続可能なまちづくりを進めます。

重要業績評価指標 (KPI)	平成 26 年度 (現状値)	平成 31 年度 (目標値)
遊休不動産活用事業化件数 (累計)	0 件	100 件
[指標の設定理由] 遊休不動産の活用が雇用や住まい、そして地域の活性化につながっていくと考えられるため。遊休不動産活用事業化件数とは、リノベーションスクールによる事業化件数と民間自立型まちづくり会社によるリノベーション手法を用いた事業化件数。		

【主な事業】

- ・リノベーションまちづくり事業

「リノベーションまちづくり」とは

近年、本区への居住希望者は増加傾向にある一方で、子育て世帯が住み続けられない等、居住ニーズに応えられていない実態があります。区内には 30,370 戸（平成 25 年時点）の空き家が存在していることから、居住ニーズとストックにミスマッチが生じています。そこで、区内で増加する空き家、低未利用な公共施設等の遊休不動産を活用することで、都市・地域経営課題を解決し、住んで働いて暮らせる持続可能なまちを実現することを目指し、民間主導による公民連携型まちづくりであるリノベーションまちづくりの手法により、取り組んでいきます。

◎空き家の利活用の事例



ロイヤルアネックス(豊島区)

カスタマイズ賃貸住宅・・・壁紙や設備、間取りなどを居住者が自身のニーズや好みに合わせて自由にカスタマイズすることのできる賃貸住宅

(3) 学ばせたい 通わせたい としまの教育を推進

① 新しい時代を拓く教育の推進

区立学校（幼稚園、小・中学校）の教育内容の充実を図り、幼稚園から中学校までを見据えた英語教育の推進やICT環境整備、アクティブラーニングの充実を図ることで、確かな学力や豊かな人間性の育成を実現し、魅力的な学校づくりを推進します。また、トイレを洋式化し、児童・生徒が安心して学校生活を送ることができる環境を早急に整備します。

重要業績評価指標（KPI）	平成 26 年度（現状値）	平成 31 年度（目標値）
①英語活動が楽しい児童の割合・ 英語の授業が楽しい生徒の割合	小学生 74.5% 中学生 74.2%	小学生 80.0% 中学生 80.0%
②電子黒板やタブレットを活用した 授業がわかりやすい児童・生徒の割合	小学生 76.6% 中学生 64.7%	小学生 80.0% 中学生 70.0%
[指標の設定理由] 確かな学力や豊かな人間性の育成をはかるための客観的な指標であるため（児童生徒の意識意向調査）		

【主な事業】

- ・幼稚園、小・中学校における英語教育の推進
- ・ICT環境整備とアクティブラーニングの充実
- ・学校トイレ洋式化緊急整備



◆立教大学 イングリッシュキャンプ(※)

※区立中学校の中学生と立教大学の留学生とが、英語を通してコミュニケーションを図り、異なる国や文化についての理解を深めることを目的とした豊島区と立教大学の連携プログラム。



◆タブレット PC で使って説明する児童

◆学校トイレの洋式化を緊急的に実施

before



after



② 安全・安心な学校づくり(インターナショナルセーフスクール)

学校、保護者、地域と連携し、幼児、児童、生徒の安全・安心の確保に取り組み、学習活動の基盤としての安全で安心な学習環境づくりを行います。

重要業績評価指標 (KPI)	平成 26 年度 (現状値)	平成 31 年度 (目標値)
インターナショナルセーフ スクール認証取得校数	1 校	小学校全校取得に向けて増加
[指標の設定理由]安全な教育環境づくりを目指す学校に認められる国際認証であるため。		

【主な事業】

- ・インターナショナルセーフスクールの認証取得

「インターナショナルセーフスクール (ISS)」とは

インターナショナルセーフスクールとは、WHOが推奨する安全な学校づくりのための仕組みが確立され機能していると認められた学校が得られる国際認証です。豊島区では朋有小学校が日本で3校目、東京都では初の認証を取得しており、平成27年度、富士見台小学校が区内で2校目の認証を得ました。

学区が広域化するとともに、池袋駅周辺の繁華街を含み、児童がけがや事故に遭遇する可能性が高い環境となっていることや、近年高層住宅が増え児童数の大幅な増加、さらに、隣接校選択制による学区外からの児童も含まれることから、地域・保護者と連携した安全・安心な学校づくりを推進していくことが求められており、全学校での認証取得を目指し、取り組んでいきます。

朋有小学校



池袋本町小学校



仰高小学校



富士見台小学校



(4) 女性の目線にたった施設整備

① トイレから広がる女性にやさしいまちづくり

旧庁舎地の開発に合わせて、隣接する区民センターと生活産業プラザを一体的に改築するにあたり、区民センター2階、3階フロアを大半をトイレフロアとし、特に女性目線にたったトイレを重点的に整備するとともに、さらに子育て世代が利用しやすいよう、親子トイレなども整備します。

重要業績評価指標 (KPI)	平成 26 年度 (現状値)	平成 31 年度 (目標値)
新区民センター内の パブリックトイレ整備状況	—	整備完了

[指標の設定理由] 新区民センター内のパブリックトイレの整備状況が施策の進捗を示すものであるため。

【主な事業】

- ・新区民センター内のパブリックトイレ等整備

「行列のできるトイレ」を解消します

フィッシング・パウダーコーナーを設けます

パパとママの「あったらいいな」に応えます

「生涯健康美人」でこころの健康づくりをサポート

「多言語対応」で外国人観光客にもアピール

安全安心、清潔+α
トイレから広がる
女性にやさしいまちづくり

女性の目線で
スーパーバリアフリーな
公共トイレ空間を創出

※トイレ画像：日本トイレ大賞受賞作品
(内閣府ホームページより)

「新区民センター内のパブリックトイレ」とは

新区民センターは現在の区民センターと生活産業プラザ跡地に、地上9階、地下3階の施設として2019年秋に完成予定です。F1会議などで提案された若い女性の要望に応えるため、2、3階には大規模な「パブリックトイレ」(女性用計35ブース)や、座って化粧ができるパウダーコーナー、子連れ利用者のための親子トイレ、オムツ替えスペースなどの設置により、女性にやさしいまちづくりに取り組み、まち全体にきれいなトイレを広げ、区のイメージアップを図っていきます。

② 子育て世代が利用しやすい公園の整備

地域の実情を踏まえながら、子育て世代が利用しやすい公園となるよう、公園の改修及び再整備を行い、だれもが快適に集い、憩える公園等の拡大を図ります。

重要業績評価指標 (KPI)	平成 26 年度 (現状値)	平成 31 年度 (目標値)
豊島区みどりの基本計画の計画期間 (平成 23~32 年)における 公園整備 (新設・改修) 面積 (累計)	28,771 m ²	58,100 m ²
[指標の設定理由] 公園の整備面積の増加は、子育て世代が利用しやすい公園の拡大を示すため。		

【主な事業】

- ・公園・児童遊園整備
- ・南池袋公園整備
- ・造幣局跡地防災公園整備



◆南池袋公園整備イメージ

1. 基本的方向

○高齢になっても、元気で、生きがいを持って、安心して暮らすことができるまちづくりを進めます。

数値目標	平成 25 年度 (現状値)	平成 31 年度 (目標値)
65 歳健康寿命	男性 80.3 歳	男性 81.4 歳以上
	女性 82.0 歳	女性 83.1 歳以上
< 指標の設定理由 > 65 歳健康寿命とは、65 歳の人が何らかの障害のために日常生活動作が制限されるまでの年齢を平均的に表したものである。東京都が毎年公表するもので、要支援1以上の認定を受けるまでの平均自立期間で算出した値を使用している。平成 25 年度において、23 区の中で最も高かった値を目標値としている。		

2. 具体的な施策

(1) 生涯健康のまちづくり

① 健康長寿まちづくりの推進

高齢者が元気で長生きするためには、他者との交流や、各人の状態に応じたさまざまな活動に参加することが重要となってきます。

そこで、高齢者の健康づくりの入り口となる「介護予防センター」を整備・展開するほか、健康づくりを支援する「介護予防リーダー」を養成します。産官学連携のもと、高齢者が活動する場と活動を支援する人の輪を拡げ、各人の状態に応じた活動への参加を促進して、地域ぐるみで健康長寿を目指すまちづくりを推進します。

重要業績評価指標 (KPI)	平成 26 年度 (現状値)	平成 31 年度 (目標値)
地域における高齢者の通いの場*の受け入れ人数	—	1,500 人
[指標の設定理由] 地域の「通いの場」の増加が、まちづくりの充実度を示す指標であるため。		

※「通いの場」とは、高齢者の自主的な活動の場のことであり、介護保険の通所サービスや学校などは含まない。

【主な事業】

- ・介護予防センターの整備・展開
- ・介護予防リーダー養成事業
- ・地域リハビリテーション活動支援事業
- ・食彩いきいきサロン事業
- ・お化粧品による介護予防事業



《男の料理教室》



◆元気！ながさきの会 《太極拳》

② としま健康チャレンジ！の促進

高齢になっても元気であるためには、若年期からの健康づくりが欠かせません。

「いつでも、だれでも、どこでも」を掲げた健康チャレンジ！事業を展開し、気軽に健康づくりへの参加を促します。また、自分の好きな健康づくりに参加してポイントが貯まるマイレージ制度を導入することにより、健康づくりの継続を促進します。

重要業績評価指標（KPI）	平成 26 年度（現状値）	平成 31 年度（目標値）
健康チャレンジ！参加者の 健診受診率	88%	95%
[指標の設定理由] 健診受診率が、健康意識の向上を示す指標であるため。		

【主な事業】

- ・健康チャレンジ！測定会及び講演会の実施

「としま健康チャレンジ！」とは

健康づくりに気軽に取り組み、健康習慣を身につけてもらうことを目的に、健康チャレンジ！応援団（民間事業者・地域団体・区民グループ・区内スポーツ施設）と協力して、健康に関する講演会や運動講座、イベント等を用意しています。それらに参加してポイントを集め、マイレージカードと交換し、区内協賛店でサービスを受けることができるのが「健康チャレンジ！」事業であり、豊島区に在住・在勤・在学の 20 歳以上の方ならどなたでも参加することができます。



◆としま健康チャレンジ！運動講座

(2) 生涯安心のまちづくり

① としま見守り安心戦略の推進

一人暮らし高齢者の多い豊島区では、高齢者の命と健康を守るため、「見守り」が大変重要です。一方、老々介護や認知介護、障害者との同居など、複雑な課題も増えてきています。

そこで、これまでは一人暮らし高齢者に限定していた実態調査の対象を高齢者全体に広げ、積極的なアウトリーチ活動を展開するほか、多様な主体による見守り活動をさらに充実させていくことにより、支援を必要としている高齢者を漏らすことなく見守り、高齢者の安心生活を支えていきます。

重要業績評価指標 (KPI)	平成 26 年度 (現状値)	平成 31 年度 (目標値)
見守り協定団体数 (累計)	1 団体	100 団体
[指標の設定理由] 協力団体数が、見守りの充実度を示す指標であるため。		

【主な事業】

- ・ 高齢者アウトリーチ事業
- ・ 見守りと支え合いネットワーク事業
- ・ 高齢者安心通報事業

② 地域支え合いの充実

高齢化が進む中、身体が不自由になっても住み慣れた地域で安心して生活し続けるためには、医療・介護サービスの充実とともに、地域における支え合いが大きな意味を持ちます。

豊島区独自の地域コミュニティ拠点である「区民ひろば」や、そこを拠点に活動する地域支援のスペシャリスト「コミュニティソーシャルワーカー」等の豊島区ならではの強みを最大限に活かし、地域の課題を地域で考え、年齢を問わずにお互いに支え合える地域づくりを積極的に推進します。

重要業績評価指標 (KPI)	平成 26 年度 (現状値)	平成 31 年度 (目標値)
認知症サポーター養成人数 (累計)	4,569 人	1 万人
[指標の設定理由] 認知症を理解・応援する人の増加が、支え合いの充実度を示す指標であるため。		

【主な事業】

- ・ コミュニティソーシャルワーク事業
- ・ 地域福祉サポーター制度の推進
- ・ 認知症サポーター養成事業
- ・ 区民ひろばの展開



③ 医療・介護サービスの基盤整備

高齢者が、医療や介護が必要になっても住み慣れた地域でいつまでも在宅生活を続けられるよう、医療・介護サービスの基盤を整備します。

特に、身近な相談拠点である高齢者総合相談センター（地域包括支援センター）、在宅医療相談窓口、歯科相談窓口などを充実し、高齢者の安心生活を支えていきます。

重要業績評価指標（KPI）	平成 26 年度（現状値）	平成 31 年度（目標値）
介護・福祉サービスや相談窓口に満足している人の割合	13.5%	20.0%
[指標の設定理由] 介護・福祉サービスの充実度を示す指標であるため。		

【主な事業】

- ・ 高齢者総合相談センターの充実
- ・ 在宅医療相談窓口の充実
- ・ 歯科相談窓口の充実
- ・ 認知症ケア向上推進事業
- ・ 区外における特別養護老人ホーム整備に向けた調査・検討



◆ 高齢者総合相談センター

1. 基本的方向

○交流を持つ自治体との連携を進め、豊島区と他自治体における相互補完モデルの構築を目指します。連携を図ることで、様々な地域と共生し、ともに豊かな生活を実現できるまちづくりを進めていきます。

数値目標	平成 26 年度 (現状値)	平成 31 年度 (目標値)
「観光情報や物産など、地方の情報に接することができる」と思う区民の割合	22.5%	30.0%
<指標の設定理由> 区民が他自治体との交流を感じることができていることを示す指標であるため。		

2. 具体的な施策

(1) 様々な地域との共生

① 豊島区版CCRC構想の推進

老後は、様々な地域に移住して、豊かな自然の中で仕事や趣味を通して地域社会に参加する暮らしを希望するアクティブシニアの希望を叶えるため、手始めに秩父市と連携して、「移住を考える会」での当事者目線の検討を通じ、ケア体制の整った新たな住まい方を提案します。

(CCRC: Continuing Care Retirement Community の略)

重要業績評価指標 (KPI)	平成 26 年度 (現状値)	平成 31 年度 (目標値)
①移住に関する説明・相談への参加者数	0 人	100 人
②移住体験ツアーの参加者数	0 人	20 人
[指標の設定理由] 希望する区民の移住を後押しし、移住実現につなげる指標のため。		

【主な事業】

- ・豊島区版CCRC構想の推進

「生涯活躍のまち（日本版 CCRC）」とは

人口急減・超高齢化という直面する大きな課題に対し政府一体となって取り組み、各地域がそれぞれの特徴を活かした自律的で持続的な社会を創生できるよう設置された「まち・ひと・しごと創生本部」によって提唱されている方針のひとつです。

「生涯活躍のまち」とは、「東京圏をはじめとする地域の高齢者が、希望に応じ地方や「まちなか」に移り住み、多世代と交流しながら健康でアクティブな生活を送り、必要に応じて医療・介護を受けることができる」まちづくりを目指すものです。

② 大学との連携による地域活性化の推進

大学との連携により、地域活性化策の共有・研究を進め、独自の活性化策を推進します。

重要業績評価指標 (KPI)	平成 26 年度 (現状値)	平成 31 年度 (目標値)
自治体コンソーシアム※ 参加自治体 (累計)	40 自治体	100 自治体
[指標の設定理由] ・自治体コンソーシアムの広がり研究の深化、事業の有効性を左右するため。 ・活性化のボトルネックでもある人材不足を解決する目安となるため。		

※地方創生の方策を共同研究するため、大正大学の地域構想研究所を中心として自治体が参加して構成する組織。

【主な事業】

- ・大正大学の自治体コンソーシアム
参加自治体の交流、研究活動、地元商店街と連携したミニアンテナショップ
- ・コンソーシアム参加自治体による
地域創生学部学生インターン受入れ
- ・7 大学連携事業



◆大正大学『ふるさとまつり』

③ 特別区全国連携プロジェクト

地方との共存共栄のためには、豊島区だけではなく、特別区全体が一丸となって、取り組んでいく必要があります。そのため、豊島区は「特別区全国連携プロジェクト」の一員として、全国各地の自治体と産業、観光、文化、スポーツなど様々な分野での新たな連携を図ります。

重要業績評価指標 (KPI)	平成 26 年度 (現状値)	平成 31 年度 (目標値)
連携事業数	H27 開始	新たな連携事業 の実施
[指標の設定理由] 連携事業が地方創生の一助となるため。		

【主な事業】

- ・ホームページの運用によるマッチング事業

(2) 自治体交流の活性化

① 自治体交流の活性化

各交流都市の魅力を紹介する機会や体験プログラムを設け、移住等ライフスタイルの選択肢を増やすことで、地域活性化や人口維持に寄与します。

豊島区及び協定締結先の自治体の区域において大規模な災害が発生した場合、被災した自治体独自では十分に応急措置が実施できない場合に、災害を受けていない自治体が救助救援用物資の提供、応援対策用資機材の提供又は貸与、職員の派遣、施設の提供等の協力・応援を行い、被災した自治体が応急対策や復旧対策を円滑に遂行できるようにします。

重要業績評価指標 (KPI)	平成 26 年度 (現状値)	平成 31 年度 (目標値)
①自治体交流事業の参加者に対して行う満足度調査 (5段階評価)	—	平均 4 以上
[指標の設定理由] 地方との共生・交流が達成できたかを示す指標であるため。		

【主な事業】

- ・相互交流事業 (例：栃木県那須烏山市民受け入れ事業『一日豊島区民の旅』)
- ・沿線サミット
- ・他自治体との災害時協定

◆防災サミット in 豊島



◆西武線沿線サミット



◆東武東上線沿線サミット

② 他自治体との教育連携の推進

平成 25 年 1 月に、秋田県能代市と教育連携協定を締結しました。情報交換・交流・訪問等の活動を通じて、学力向上に向けた取り組みや、地域との協働の在り方を相互に学びあっています。能代市への教員派遣のほか、教員悉皆研修として実施するとしま教育フォーラムの開催、子ども体験交流事業を行います。

重要業績評価指標 (KPI)	平成 26 年度 (現状値)	平成 31 年度 (目標値)
①子ども体験交流の派遣人数	16 名	24 名
②派遣団の派遣人数	14 名	20 名

[指標の設定理由] 連携の度合いを示す客観的な指標であるため。

【主な事業】

- ・能代市との教育連携

◆能代市の学力向上に向けた授業実践
(としま教育フォーラム)



◆能代市との教育連携締結式

1. 基本的方向

○豊島区が誇るアート・カルチャーの魅力を、世界に向けて発信し、人と産業をひきつけ、世界中から人が訪れ、楽しむことができる都市づくりを推進し「持続発展都市」を目指します。

数値目標	平成26年度（現状値）	平成31年度（目標値）
滞在人口 （平日一日あたり）	976,000人	1,300,000人
<指標の設定理由> 多くの人々が豊島区を訪れていることを示す指標であるため。RESAS(地域経済分析システム)による算出値であり、滞在人口とは、在住・在勤・在学を含めた、区に2時間以上滞留した人の数を表している。		

2. 具体的な施策

平成27年3月に策定した「国際アート・カルチャー都市構想」の具現化に向けた実現戦略を検討するため、区長の附属機関である「国際アート・カルチャー都市懇話会」を設置しました。会長には前文化庁長官の近藤誠一氏を、また、小田島雄志氏、隈研吾氏、里中満智子氏、野田秀樹氏、野村萬氏、福地茂雄氏の6名を特別顧問とする総勢31名で構成されています。平成32（2020）年東京オリンピック・パラリンピックを見据え、文化、空間、国際の3つの戦略で、豊島区が誇るアート・カルチャーの魅力を、区民レベルでの活動の担い手である「国際アート・カルチャー特命大使」とともに、世界に向けて発信していきます。

◆国際アート・カルチャー都市懇話会



◆国際アート・カルチャー特命大使認証式

(1) 多様性を活かしたまちづくり

① 演劇のまちとしての魅力の発信

東京都と協力して、個別展開されている事業を再編し、芸術文化拠点である池袋において、舞台芸術の祭典のブランド化を推進するとともに、世界に向けて豊島区が国際的演劇都市であることをアピールしつつ、世界からの集客を目指します。

具体的には、フェスティバル/トーキョー(F/T)、池袋演劇祭、アジア舞台芸術祭、東京芸術劇場・あうるすぽっとの自主事業の実行委員会の上部委員会を設け、共同の事業・広報展開を作ることで、世界へ発信します。

重要業績評価指標 (KPI)	平成 26 年度 (現状値)	平成 31 年度 (目標値)
フェスティバル/トーキョー (F/T) 動員数	58,609 人	75,000 人

[指標の設定理由] 演劇祭動員数が一番的確な指標となるため。

【主な事業】

- ・フェスティバル/トーキョー(F/T)など
国際演劇祭の充実
- ・池袋演劇祭



◆池袋演劇祭
撮影:久塚 真央



◆フェスティバル/トーキョー 撮影者:片岡 陽太

② アニメ・コスプレなどサブカルチャーの発信

かつて、豊島区には手塚治虫を始めとした多くの著名な漫画家を輩出したトキワ荘があり、マンガ文化の創造拠点でありました。現在は、「乙女ロード」と呼ばれる若い女性が集まるアニメ関連商業施設が集積するエリアがあるなど、アニメ文化の発信拠点となっています。

こうした地域特性の中、まちを舞台に開催されるアニメやコスプレのイベントには世界中から人々が集まり、1日で数万人が訪れることもあります。自ら表現する人も、誰かの表現を楽しむ人も、全ての人が思い思いの形でイベントに参加しています。

豊島区は、イベントを通じてまち全体が活性化するよう支援していきます。

重要業績評価指標 (KPI)	平成 26 年度 (現状値)	平成 31 年度 (目標値)
オータムカルチャーフェスティバル来場者数	9.9 万人*	32 万人

[指標の設定理由] アニメ・コスプレをはじめとしたサブカルチャーが発信されていることを示す指標であるため。

※平成 26 年度の現状値は、池袋シネマチ祭、アニメイトガールズフェスティバル、池袋ハロウィンコスプレフェスティバルの来場者数。

【主な事業】

- ・トキワ荘通りお休み処事業
- ・南長崎マンガランド事業
- ・オータムカルチャーフェスティバル



◆池袋ハロウィンコスプレフェス

(2) 出会いが生まれる劇場空間

① 旧庁舎跡地活用・周辺整備 ～8つの劇場による にぎわい～

旧庁舎跡地周辺は、多様な興行利用にも対応できる 1,300 席の新ホールをはじめ、ライブ劇場やシネマコンプレックス、カンファレンスホールのほか、新区民センターの 500 席の多目的ホールなど「8つの劇場」から生み出す圧倒的なにぎわいと、外国企業等を誘致するオフィスタワーによる副都心の新たなランドマークを創出します。また、中池袋公園、南北区道もあわせて整備し、「国際アート・カルチャー」のまさに「顔」となる、国際的な文化にぎわい拠点にするとともに、女性が快適に過ごせる「女性にやさしいまちづくり」を象徴するエリアとします。

重要業績評価指標 (KPI)	平成 26 年度 (現状値)	平成 31 年度 (目標値)
集客数 (年間)	160 万人	650 万人

平成 32 年春
グランドオープン

[指標の設定理由] にぎわい拠点としての指標とするため。

【主な事業】

- ・新ホール、新区民センター、中池袋公園、南北区道の整備
- ・国際競争力強化推進事業

◆新ホール等完成イメージ図



※パースについては現時点での計画をイメージとして描いたものであり、今後変更になることがあります。

② 道路や公園などの公共空間の利用による都市の魅力向上

国家戦略特区を活用するなど、価値ある地域の形成・活性化を図り、道路や公園など公共空間の新たな活用によるにぎわいを創出します。

重要業績評価指標 (KPI)	平成 26 年度 (現状値)	平成 31 年度 (目標値)
オープンカフェ・マルシェ等の開催回数(累計)	21 回	200 回
[指標の設定理由] エリア内でのにぎわい創出の指標となるため。		

【具体的な事業】

- ・オープンカフェ※
- ・マルシェ※等の連携イベント



※にぎわいの創出を目的に、道路などの公共空間に客席を設け、開放的な雰囲気の中で飲食が楽しめるカフェのこと。また、同様にマルシェとは生産者の顔が見える野菜や果物を直販することをいう。

③ 安全・安心の確保

区が主体となった防犯活動を展開するとともに、町会、商店街、各種業界団体、関係行政機関との連携に努め、犯罪の発生を防止します。

セーフコミュニティを推進力に、安全・安心な環境を構築することで、女性や高齢者、子どもが不安なく暮らせる環境を築き、定住を促進します。



◆豊島区繁華街警備隊出陣式

重要業績評価指標 (KPI)	平成 26 年度 (現状値)	平成 31 年度 (目標値)
刑法犯の認知件数	6,100 件	5,500 件
[指標の設定理由] 犯罪の発生件数が安全安心の指標であるため。		

- 【主な事業】
- ・豊島区繁華街警備隊
 - ・街頭防犯カメラの設置事業
 - ・青色防犯パトロール車による防犯事業
 - ・セーフコミュニティの再認証取得

(3) 世界とつながり人々が集まるまち

① インバウンド施策の推進

ハード・ソフト両面から宿泊・滞在環境を充実させ、観光客の満足度向上を図るなど、インバウンド施策を総合的に進め、区の魅力を向上させ、外国人観光客からの認知度向上を図ります。

重要業績評価指標 (KPI)	平成 26 年度 (現状値)	平成 31 年度 (目標値)
宿泊 (滞在) 満足度	H27 調査	H27 調査結果 +5~10%

指標の設定理由] 外国人観光客の認知度を向上させるうえで、宿泊(滞在)満足度の向上が重要であるため。

【主な事業】

- ・Wi-Fi 環境の整備
- ・インバウンド冊子の発行
- ・海外の大規模なマンガ・アニメイベントへブース出展



◆TOSHIMA Free Wi-Fi シンボルマーク

◆外国人旅行者向け池袋エリアガイドブック



② 産業振興による活性化

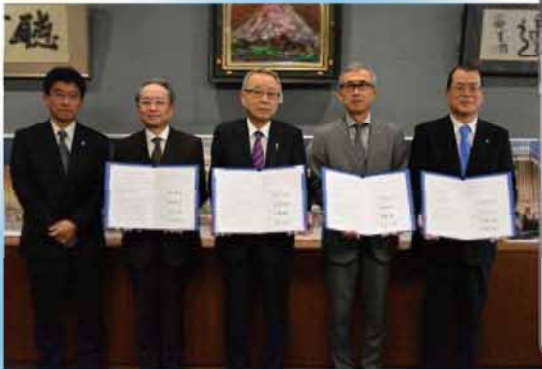
2020年東京オリンピック・パラリンピック開催を控え、世界中から日本へ、そして豊島区にも多くの来街者が集まることが期待されており、この絶好機を捉えて、産業振興につなげていきます。

また、近隣区と合同で商談会を開催するなどのビジネスネットワークを設け、各区の交流都市の企業にも連携の輪を広げ、広域の地域活性化を目指していきます。

重要業績評価指標 (KPI)	平成 26 年度 (現状値)	平成 31 年度 (目標値)
東京 5 区合同大商談会 ・ものづくりメッセ等 参加企業数 (累計)	196 社・団体	1,200 社・団体
[指標の設定理由] 企業への販路開拓支援を図る指標として適切であるため。		

【主な事業】

- ・東京 5 区合同大商談会の開催
- ・としまビジネスサポートセンターによる企業支援
- ・区内金融機関と連携したソーシャルビジネス支援の充実
- ・としまものづくりメッセ（池袋副都心の産業見本市）の開催
- ・起業融資の利子自己負担ゼロ



区内金融機関との 4 者協定

巢鴨信用金庫、東京信用金庫、日本政策金融公庫と豊島区の 4 者が、地方創生にかかる包括連携協力の協定を締結。すでに実施している女性の就労・起業支援に加え、豊島区版 C C R C、リノベーションまちづくり、国際化に向けたインバウンド等について、相互連携により、ソーシャルサービス事業者をトータルでサポートしていきます。

としまビジネスサポートセンター

相談支援機能を重視した「としまビジネスサポートセンター」は、平成 22 年度に誕生しました。当センターは、地元金融機関や産業団体など、関連機関が一体となり、新しい協働のスタイルをとりながら中小企業を支援します。ご利用者の課題にあわせて、専門相談員による面談など、金融サポートから経営戦略サポートまでワンストップサービスを提供し、中小企業者と共に明日のビジネスをカタチにします。



豊島区まち・ひと・しごと創生総合戦略

編集・発行 平成28（2016）年3月

豊島区政策経営部企画課

〒171-8422 豊島区南池袋2-45-1

電話番号：03-3981-1111（代表）

